

2025年度 新潟大学歯学部同窓会学術講演会

ハイブリッド
開催

今日から歯間ブラシで始まる口腔細胞診 — 早く・安く・正確な口腔細胞診 —

新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔病理学分野

田沼 順一 教授



ご略歴

1994年 3月 鹿児島大学歯学部 卒業
1994年 4月 埼玉県立がんセンター 臨床病理部・研究所病理部 研修医
1998年 4月 鹿児島大学歯学部 口腔病理解析学分野 助手
2000年 10月 イタリア国立がん研究センター研究所 実験腫瘍学 研究員
2005年 3月 新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授
2010年 4月 朝日大学歯学部口腔病理学分野・大学院研究科 教授・研究科副科長
2018年 2月 新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔病理学分野 教授

参考文献

1. 田沼順一. 口腔がん早期発見のための口腔細胞診入門医歯薬出版 2020, 12月出版.
2. 田沼順一. 口腔疾患に対する口腔の液状化検体細胞診の有用性—早く・安く・正確な口腔細胞診— 新潟歯学会 総説 50 : 1-6, 2020.

舌がんステージⅣに罹患した堀ちえみさんのSNSをきっかけに、日本中の大学病院・歯科医院の診療科はパニック状態でした。以前は歯科医師が口腔がんに遭遇するのは数十年に一度あるかないかと言われていましたが、2022年の国立がん研究センターの統計によると口腔・咽頭がんの罹患患者数は約2.2万人で希少がんであるものの、死亡者数は約8,000人で罹患患者数に対する死亡者数の割合が高いことを医師・歯科医師などの医療従事者はもちろん、一般国民もこのことを知らないのが現状である。

一方、口腔粘膜は直視可能な部位であり、異常が生じた際には即座に病変の有無や良悪の判定が容易と思われる傾向があるが、口内炎や歯肉炎などが体調により症状の増悪と軽快を繰り返すおこるために、早期がんであっても患者が何の根拠もなく放置してしまうことが多く悲惨な結果を生じている。また従来法による口腔細胞診は、検体採取に高度な技術が要求されて、乾燥の失敗が多いため利用者には大変難しかった。そこで近年注目の「液状化検体細胞診(LBC)法」は、検体採取者の技術差を問わず、開業医や若手歯科医師・研修医などの未経験者でも簡便に実施することができて、患者さんにも低侵襲であることから、極めて有用で容易な判定手段と言える。

したがって今回の講演では、本邦の口腔がんの現状、口腔細胞診の採取方法や採取後の手続き等を紹介しながら、発生頻度の高い口腔粘膜疾患の鑑別及びピットフォールになるような疾患を紹介する。

会場 & ライブ配信

新潟大学歯学部講堂 または Web参加
2025年 4月20日(日)
9:00~10:30
【申込締切 4月13日(日)】

見逃し配信

2025年
5月12日(月)~6月1日(月)
※見逃し配信のみの申し込みは受け付けておりません。
※申込者全員、見逃し配信が視聴できます。

定員

会場 60名 ライブ配信 100名

受講料

	同窓会会員および歯科医師以外の職種	同窓会会員以外の歯科医師
会場・ライブ配信とも	無料	5,000円

申込方法

二次元コードから
お申込みください



同窓会HPのTOPページへ移動しますので、下方へスクロールし、該当するセミナーを押して下さい。

二次元コードが読み取れない場合、同窓会ホームページよりお申し込み下さい。

<https://al-dent-niigata-u.jp>

※日本歯科医師会会員の先生方は、日本歯科医師会生涯研修事業の単位を取得できます。
【お問い合わせ先】 同窓会事務局 Tel 025-229-4166 / gakujuutsu@al-dent-niigata-u.jp